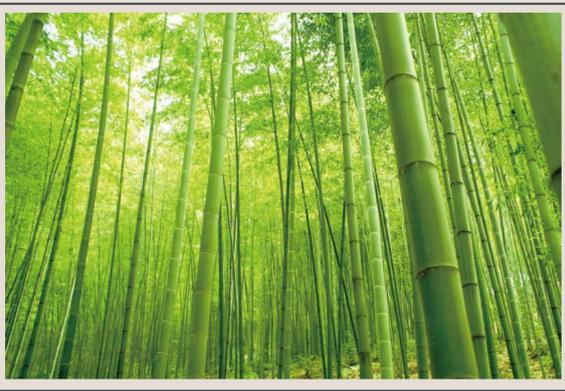


大久野通信 vol.3

里山化への道のり



いよいよ 23 年も残り僅かとなりました。大久野倶楽部の活動拠点は、周囲を山で囲まれ 16 時を過ぎると薄暗くなってしまいます。農作業は、時間との勝負です。拠点では、日の出三六会（NPO 法人）の皆さんも活躍されています。山の整備を楽しむ大先輩たちが、ボランティアで里山づくりをされています。大久野倶楽部の目指す循環型社会は、地道な活動の先に実現する、こうした思いで彼らのご指導を仰いでいます。これからの季節は、草刈りから解放されるので、山野整備が本格化します。

INDEX

- ・夏場の草刈り
- ・竹紛の活用
- ・竹紛による雑草抑制試験
- ・竹炭で比較実験
- ・今後の展望

夏場の草刈り

活動拠点の夏は、雑草との戦いでした。写真は 1 年放置した場所の状態ですが、至る所がこのありさま。雑草は遅く、1 週間もすれば元通りになってしまいます。農作業の傍ら、雑草と格闘している間に熱中症になるなんてことも。何とか改善する方法は無いのかと頭を悩ませていました。



草刈り前の様子



草刈り後の様子

竹紛の活用

活動拠点の周囲は、杉林と竹林です。伐採されずに、こちら伸び放題。日の出三六会の皆さんは、竹林整備にも取り組まれており、切り出した竹は粉碎して竹紛にしています。厄介者となっている竹から生まれる竹紛ですが、農業資材や健康食品など、様々な活用方法がネットで紹介されています。その中に、「古くから雑草の抑制効果がある」という文言がありました。まあ、ダメもとで試してみようという軽い動機で、竹紛を分けて頂く事になりました。



竹紛採取作業の様子

竹紛による雑草抑制試験

雑草を刈った場所に試験区を設定し、施工の有無による評価を始めました。竹で区分した結果、整備された庭をイメージさせる相乗効果も得られています。ひと夏過ぎましたが、雑草はかなり少ない印象です。理由は今後検証していきます。



竹紛施工前



竹紛施工後

竹炭で比較実験

三六会の皆さんは、切り出した竹で竹炭作りも行っています。作り方は、別途伝承頂く予定ですが、竹炭も試しに撒いてみようとなりました。竹炭には細孔があり、これに由来した吸着機能から発展して、抗菌、調湿、防虫、健食などの分野で研究が進んでいる様です。ただ、防草という言葉は見つかりませんでした。こちらもひと夏を超えましたが、雑草の勢いは抑えられています。また、粘土質土壌で水捌けが悪かった（降雨後は田んぼの様）試験区ですが、靴がドロドロになってしまうことが無くなりました。蚊など厄介な虫が抑制できないか期待したのですが、施工面積が狭いこともあり、今のところ効果は実感できていません。

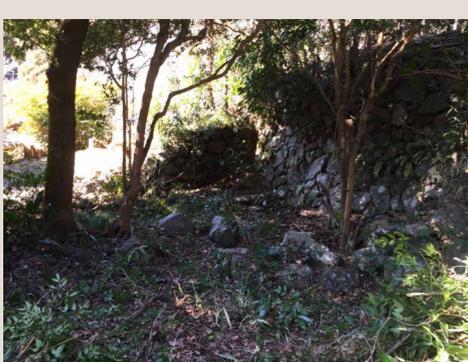


竹炭施工前



竹炭施工後

更に、藪化が激しい場所も、同様の手法で試験区を設けて、雑草抑制の効果を試すことにしました。藪化した場所は、苦手な蛇などの生息場所にもなります。竹粉や竹炭を撒くことで、夏場に不幸な出会いが起らぬよう、整備を進めています。



整備前の様子



整備後の様子

今後の展望

大久野倶楽部では、循環型社会の実現もテーマとしております。放置されて厄介者となっている自生植物を整えて、自然界が持っている機能を活用して共存を目指す、里山化にはそうした側面があります。ご洒落た言い方をすれば、スマート・ビレッジ構想です。現代における里山では、エネルギーをいかに調達するか、情報環境をどうするか、など現代人の営みを持続するためのインフラも必要です。ある部分では自然の機能を活かし、またある部分では近代的な技術を導入する、そこには紛れもなくエンジニアリングがある訳です。大久野倶楽部はそんなことも考えながら、冬場でも汗をかき続けます。